

●演習ワークシート

事例 1

症例：20 歳代，男性

主訴：胸痛

胸痛で受診。X 線検査で右の高度肺虚脱を指摘され，気胸の診断で胸腔ドレーン挿入を実施され，入院。ドレーンにはチェストドレーンバッグが接続されているが，ウォーターシールの状態である。

【入院時現症】

血圧	脈拍数	体温	SpO ₂	呼吸数
123/67mmHg	69 回/分	36.1℃	97% (室内気)	18 回/分

意識	チューブ	挿入部	排液
GCS 4-5-6	閉塞，折れ曲がりなし	出血なし，皮下気腫は若干のみ	入院時点ではない

演習課題 1

胸腔ドレーン挿入後の事例を提示しました。

胸腔内持続吸引器の設定について以下の項目について検討してください。

- ・特定行為を行う病状範囲の確認
- ・特定行為の実施にあたり確認する事項

演習課題 2

特定行為内容について検討して下さい。

●演習ワークシート

事例 2

症例：70 歳代，男性

自転車走行中の交通事故により搬送。外傷性の左血気胸により胸腔ドレナージを実施され，緊急入院となった。

申し送り内容：当日で入院 3 日目の経過。日勤帯の所見として，ドレーンからの排液は淡血性，およそ 10mL/時程度の排液が認められており，少量のエアリークが続いていた。現在 $-10\text{cmH}_2\text{O}$ の持続陰圧吸引を行っている。SpO₂ は 97%前後（O₂ 3L/分）で推移しており，意識は清明，その他バイタルは問題なし。

夜間に呼吸困難でナースコールあり。

【訪室時現症】

血圧	脈拍数	体温	SpO ₂	呼吸数	意識
149/96mmHg	91 回/分	37.1℃	96% (3L/分)	24 回/分	GCS4-5-6

左呼吸音は減弱，皮下気腫の増大なし。ドレーンからのエアリークは消失しており，呼吸性変動も消失している。

演習課題 3

入院時の状態について提示しました。

- ・考えられる病態について教えてください
- ・対処について教えてください

演習課題 4

ドレーンの所見から，とるべき対応について検討してください。



手順書

低圧胸腔内持続吸引器の吸引圧の設定及び設定の変更

【当該手順書に係る特定行為の対象となる患者】

1. II°以上の気胸で胸腔ドレーンが留置されている
2. 胸部術後で胸腔ドレーンが留置されている
3. 慢性胸水で胸腔ドレーンが留置されている

【看護師に診療の補助を行わせる患者の病状の範囲】

- 意識状態の変化なし
- バイタルサインの変化なし
- SpO₂ ≥ 92%
- ドレーンの状態に変化なし

病状の範囲外

不安定
緊急性あり

担当医師の携帯電話に直接連絡

病状の範囲内

安定
緊急性なし

【診療の補助の内容】

低圧胸腔内持続吸引器の吸引圧の設定及び設定の変更

【特定行為を行うときに確認すべき事項】

- 意識状態の変化
- バイタルサインの変化
- SpO₂ ≤ 91%
- ドレーンの状態の変化

どれか一項目でもあれば、下記の確認をして担当医に連絡

- 出血
- 皮下気腫の増大
- 性状の変化（膿様，白濁など）

担当医師の携帯電話に直接連絡

【医療の安全を確保するために医師・歯科医師との連絡が必要となった場合の連絡体制】

担当医師

【特定行為を行ったあとの医師・歯科医師に対する報告の方法】

1. 担当医師に連絡，時間外は当直医へ連絡
2. 診療記録への記載

●演習ワークシート

演習日： 月 日

研修生番号：

研修生氏名：

事例 1

演習課題 1 胸腔ドレーン挿入後の事例を提示しました。

胸腔内持続吸引器の設定について以下の項目について検討してください。

・特定行為を行う病状範囲の確認

・特定行為の実施にあたり確認する事項

演習課題 2 特定行為内容について検討して下さい。

●演習ワークシート

事例 2

演習課題 3 入院時の状態について提示しました.

・考えられる病態について教えてください

・対処について教えてください

演習課題 4 ドレーンの所見から、取るべき対応について検討して下さい.